

令和3年度

地域ぐるみで体験の風を起そう運動推進事業 家族 day①～曾爾高原でゆっくり過ごそう、2日間～

1. 目的・ねらい

親子で自然の家ならではの体験をしよう。自然の中でゆっくりとした時間を過ごすことで、リフレッシュしよう。

2. 実施日

令和3年10月2日(土)～3日(日)

3. 対象者

小学生を含む家族

4. 参加者 / 募集定員

44名(12家族) / 30名

5. スケジュール

	主なスケジュール
10/2 午後	開会式 曾爾高原散策 和紙はがき作り
夜	(夕食) キャンプファイアー 星空観察
10/3 午前	森のカフェ たき火体験 森遊び・アウトドアグッズ体験 閉会式

6. プログラム(概要)

家族で曾爾高原へ来て非日常を味わい、自然をたくさん感じながら2日間を楽しく過ごしてもらえようなプログラム構成とした。



1日目はすすきの草原を家族で歩く曾爾高原散策と、自然物を取り入れながら和紙はがき作りを行なった。

普段の生活で見ることの出来ない景色を楽しんだり、亀山登山に挑戦したりと、家族ごとに楽しい時間を過ごしていた。

また、和紙はがき作りでは散策で拾ったススキやラフトホール近辺に落ちている葉っぱなど自然物を、はがきに装飾したり基となる液に混ぜ込んだりしながら



オリジナルのはがきを作り、時間いっぱいプログラムに熱中して取り組んだ。

夜はキャンプファイアーを実施した。入場から暗闇の中を歩き、点火は2名の参加者が行った。

自らのトーチに火がついた瞬間に真剣な顔になり、見事大役をやり遂げた。その後はゲームを通して、家族間での交流の機会となった。保護者も子どもの頃を思い出したと話していた。その後は自由時間としたが、天候が良かったこともあり星空観察に多くの人が集まった。夢中になって望遠鏡を覗いている子どもの横顔がとても印象的だった。

2日目はキャンプ場に移動し、森のカフェを開いた。曾爾村に地域連携の依頼をし、講師の方による曾爾村で栽培しているハーブを用いたハーブティーの提供があった。曾爾村役場の方が見学にきて、今後もイベント等で連携をし、楽しいプログラムを一緒に提供していきたいと今後の地域連携にも前向きだった。



また、コーヒの生豆をたき火で焙煎し、参加者自身が挽き抽出した。お父さんに好評で、おいしいコーヒを淹れようと熱中していた。その傍ら子どもたちはボランティア

アとともにたき火を行い、コーヒー豆を煎るサポートをしていた。

このほか、家で不要になった本を持ち寄る古本交換会（ブックシェアリング）や、きのこ探しや自然物スケッチ、キャンプチェアに座りながら本を読むなど思い思いに過ごす参加者の姿が見られた。

閉会式では、子どもたちから「たき火が楽しかった」や「1日目ははがき作りが楽しかった」など2日間のプログラムに対して万遍なく、たくさんの感想が聞くことができた。また、親からも「普段とは違った遊び・体験が出来た」「親も楽しめた」という声が聞くことができた。

7. まとめ

今回は地域の講師を依頼したり、普段あまり行わないクラフト活動をしたりと新たな試みを行った。そうした取組に対する一定の評価もアンケートから読み取ることが出来た。一方で、参加している子どもの年齢層が広いため、「一緒に付いていけないプログラムがあった」や「1日目午後のプログラムが少しタイトだった」などの課題があった。2月初めの家族 day②に向けて改善を図り、多くの家族が満足できるプログラムを提案していきたい。

（事業推進係 佐藤 優人）